とやま
スタジアムランドプロジェクト
みんなでワクドキまちづくり

とやまスタジアムランド建設計画書（中間報告）

公益社団法人富山県サッカー協会
サッカースタジアム建設特別委員会
2024年12月16日

目 次

Ⅰ．イントロダクション	P3
Ⅱ．事業スキーム	P7
Ⅲ．計画地	P13
Ⅳ．ビジネスモデル	P21
Ⅴ．施設計画	P30
Ⅵ．ロードマップ	P34
Ⅶ．県民の声	P36
Ⅷ．特別委員会の活動	P39

Ⅰ-1. はじめに

公益社団法人富山県サッカー協会は「サッカースタジアムを核としたまちづくりで富山を元気にする」ことを目指し、とやまスタジアムランドプロジェクトを進めてきました。

選手のプレーを間近で観て迫力と臨場感を体感し、サッカーの魅力を満喫できるサッカー専用スタジアムの建設は、協会の使命である「する」「みる」「ささえる」のサッカー環境の向上を実現させるとともに、富山県サッカーの聖地、シンボルを生み出すことになります。また、Jリーグ加盟のカターレ富山のホーム戦も開催され、県内外から多くのファン・サポーターが集い、熱く応援する場となります。

富山県は人口減少や若者の県外流出など多くの地域課題を抱えています。今こそ富山県がひとつになり、県民が未来に希望を持てるまちづくりを進めることが求められています。

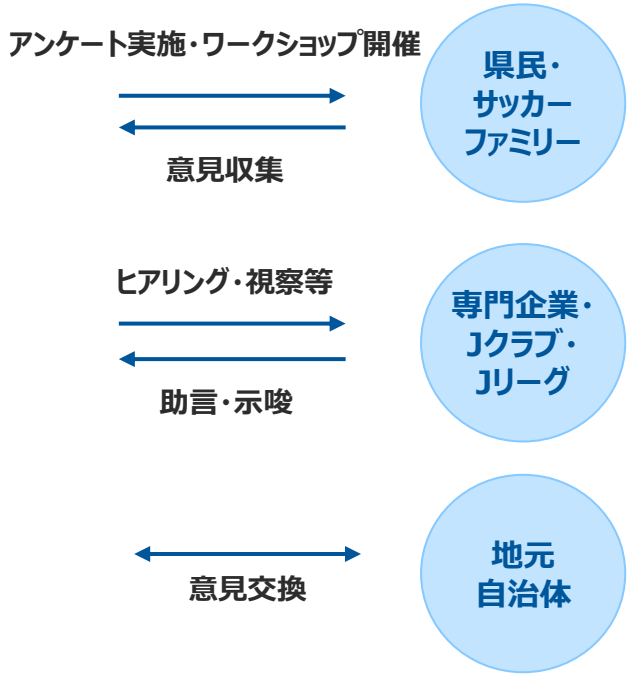
日頃からくつろげる憩いの場や若者が楽しめるレジャー・ショッピング施設、多くの経済人や来県者が集うホテル・ラウンジ、大学をはじめとする教育機関など、多くの人々で賑わうワクワク・ドキドキする空間をまちなかに創り出し、新たなシンボルと一体となった魅力あるまちづくりを行うことで、富山を活気づけたいと考えています。

2024年12月16日
公益社団法人富山県サッカー協会
サッカースタジアム建設特別委員会

Ⅰ-2. 計画立案の体制とゴール設定

- ✓ 富山県サッカー協会が様々な関係主体からの参画・協力を受けて「サッカースタジアム建設特別委員会」を組織し、プロジェクトの計画立案を行いました。
- ✓ 計画立案に向けては、県民・サッカーファミリーから幅広く意見を収集し、専門企業やJクラブ等へのヒアリングやスタジアム先進事例の視察を行いました。また、日本サッカー協会からの協力・支援を受けました。
- ✓ 本計画において目指すゴールを以下に示します。





本計画におけるゴール設定・・・

『県民に夢や希望を与えるとともに、地元自治体、投資や運営参画が期待される民間企業・サッカーファミリーに対して、"とやまスタジアムランド"実現に向けたプロジェクトの一員になっていただくこと』を目指します！

Ⅰ-3. 私たちのプロジェクトビジョン・コンセプト

とやま スタジアムラウンドプロジェクト みんなでワクドキまちづくり

プロジェクトビジョン

スタジアムを核にしたまちづくりで富山を元気にする

3つのコンセプト

1．富山のシンボル	2．関係人口の拡大	3．魅力あるまちづくり
県民がワクワク・ドキドキして、訪れたくなる富山の新たなシンボルを生む！	県内外の新たな交流が生まれ、富山の関係人口を増加させる！	富山の都市競争力を高め、持続可能なまちづくりの拠点となる！
• 選手のプレーを間近で観て、迫力と臨場感を体験できる、サッカーの魅力を満喫できる施設。 • こども～シニア世代まで、県民が非日常の熱量とエンターテインメントを体験できるリアル空間づくり。 • 多機能複合型で日常的に訪れたくなるスタジアム。 • 「富山ならでは」満載の機能創出。	• 大企業～スタートアップまで、県内企業が自然に集まり、横のつながりを生む「あの人に出会える」スタジアム。 • 県外・国外の企業との接点も生み、ビジネス機会を創出する洗練されたビジネスコミュニティプレイス。 • 県内企業の技術やサービスのプロモーション、実証実験の場。 • 既存の県内観光との連携や興行コンテンツを通じて富山の魅力を発信し、県外・国外の来場者にキッカケを与え、新たな「富山ファン」を増やす。	• 車に頼らない観戦文化を生み出し、まちに賑わいをもたらす拠点とする。 • 施設単体の整備に留まらず、持続可能なまちづくりに資する施設の立地や機能とする。 • 地域課題解決に繋がる公的機能を付与し、地方都市における官民連携スキームのモデルを構築する。 • 多様な人を受け入れるインクルーシブなまちの拠点とする。 • 富山全体に付加価値を波及させて、都市競争力の向上を図る。
• 若者の県外流出 • 通説「富山には遊ぶところがない」 • スポーツを「観る」文化が希薄	• 地元ビジネスパーソンの横のつながり不足（特に若年層） • 地元企業のプロモーション拠点の不足 • 関係人口を増加させること	• 多様な人が集いまちに活力を生む賑わい拠点の不足 • 地域課題解決に資する施設づくり • 官民連携スキームの構築

富山の課題認識

Ⅰ-4. イメージイラスト

✓ とやまスタジアムランドのプロジェクトビジョン・コンセプトを体現したイメージイラストを作成しました。



Ⅱ-0. 事業スキームの方向性

- ✓ まず、本計画の事業スキームの方向性として、**公設（一部、民間資金活用）・民営**の事業スキームを前提として、検討を行います。
- ✓ また、民間事業者の投資・参画のニーズを把握してコミュニケーションを図り、**民設・民営**の事業性検証も行いつつ、その可能性も含めて検討を行います。
- ✓ 次ページ以降に、事業スキームの考え方や事例の整理について詳しく示します。

公設（一部、民間資金活用）・民営



事例：エディオンピースウイング広島

（事業性検証）

民設・民営



事例：長崎スタジアムシティ

Ⅱ-1. 事業スキームにおいて検討すべき主体について

- ✓ 事業スキームの検討においては、**土地・施設整備・運営（経営）の３つの主体**について検討を行いました。
- ✓ 計画地や事業手法、官民連携のあり方を検討しつつ、求めるべき事業主体（＝リスクホルダー）を明確化する必要があります。
- ✓ 先進事例における３つの主体の動向について、以下に整理しました。土地提供は行政を主体とした事例が多く、整備費の調達や運営費の費用分担においてはクラブを中心とした様々な官民連携の事例が見られます。

官主体

官民連携

民主体

事　例	開業年	土地 ［土地の所有者について］	施設整備 ［整備費の調達について］	運営（経営） ［運営費の費用分担について］	事業手法
（富山県総合運動公園陸上競技場）	1993	富山県（都市公園）	富山県	県関連団体（指定管理料）	公設公営
沖縄アリーナ	2021	沖縄市（都市公園）	沖縄市	クラブ関連会社（指定管理料）	公設民営
OPEN HOUSE ARENA OTA	2023	太田市（都市公園）	太田市（クラブ関連会社による企業版ふるさと納税を一部活用）	クラブ関連会社（指定管理料）	公設民営（企業版ふるさと納税活用）
FLAT八戸	2020	八戸市（市有地） ＝無償提供	民間企業（市民利用枠買取による市負担あり）	民間企業（市民利用枠買取による市負担あり）	民設民営（市民利用枠買取）
エディオンピースウイング広島	2024	広島市（都市公園）	広島市（官民による費用分担）	クラブ（指定管理＝指定管理者から市への納付金義務あり）	公設（民間資金活用）民営
IGアリーナ（愛知県新体育館）	2025 予定	愛知県（都市公園）	愛知県・SPC（運営権売却による費用分担）	SPC（コンセッション＝独立採算）	PFI（BTコンセッション）
パナソニックスタジアム吹田	2016	万博記念公園（大阪府から吹田市が賃借）	スタジアム建設募金団体（建設後に吹田市へ無償譲渡）	クラブ（指定管理＝独立採算）	民設民営（負担付き寄附）
アシックス里山スタジアム	2023	今治市（市有地） ＝無償提供	クラブ関連会社	クラブ関連会社	民設民営
GLION ARENA KOBE（神戸アリーナ）	2025 予定	神戸市（市有地） ＝定期借地	民間デベロッパー	クラブ関連会社（SPCへ運営委託）	民設民営
長崎スタジアムシティ	2024	民有地（クラブ関連会社）	クラブ関連会社	クラブ関連会社	民設民営

出所：施設・事業HP等により事務局作成

Ⅱ-2. 土地と施設整備の事業スキームの整理

- ✓ 事業スキームとして、土地及び施設整備における主体区分に基づき、パターン整理（❶～❼）を行いました。
- ✓ 近年は官民連携の事例として、公有地における整備を目指すパターン❷❸が増えています。
- ✓ 次ページにそれぞれのパターンの事業推進におけるメリットとデメリットを示します。

施設整備	公設	公設（一部、民間資金活用）	民設	公設（一部、民間資金活用）	民設	公設	民設
土地	公有地	公有地	公有地	公・民ミックス地（公・民の連携による確保）	公・民ミックス地（公・民の連携による確保）	民有地	民有地
パターン	❶公有地＋公設	❷公有地＋公設（民間資金活用）	❸公有地＋民設	❹公・民ミックス地＋公設（民間資金活用）	❺公・民ミックス地＋民設	❻民有地＋公設	❼民有地＋民設
該当事例	京都・沖縄A・佐賀A・金沢	広島・太田A・愛知A・等々力	エスコンF・今治・神戸A・八戸A	（計画中の事例等）	（計画中の事例等）	北九州	長崎

Ⅱ-2. 土地と施設整備の事業スキームの整理

- ✓ 民間主体のプロジェクトとして推進する上でのメリットとデメリットを整理し、本計画における考察を行いました。
- ✓ 本計画の方向性として❷❹❺が想定されます。公・民ミックス地における土地確保は、地権者・地元自治体との交渉が重要です。
- ✓ Ⅲ．計画地の章において、具体的な計画地と関連付けて示します。

パターン	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼
メリット	○ 公有地＆公設による確実な事業化 ○【公】指定管理等による公費・公共性コントロール	○ 公有地＆公設による確実な事業化（＋民間資金活用による事業化促進） ○【公】指定管理等による公費・公共性コントロール ○【民】固定資産税が不要となる	○ 公有地の有効活用事業による円滑な事業化 ○ 民設民営により自由度が高い（体制面・運営面） ○ 無償借地等の行政支援の形を構築しやすい	○ 好立地な土地確保 ○ 公設による確実な事業化（＋民間資金活用による事業化促進） ○【公】指定管理等による公費・公共性コントロール ○【民】固定資産税が不要となる	○ 好立地な土地確保 ○ 土地・建物一体的な開発の自由度が高い ○ 付帯事業の充実	○ 公設による確実な事業化 ○【公】指定管理等による公費・公共性コントロール	○ 土地・建物一体的な開発の自由度が高い ○ 付帯事業の充実 ○ 民間主導によるスピーディーな事業化
デメリット	× 行政の意思決定・事業化に高いハードルあり × 行政主導による自由度の制限	× 行政による公募手続きが必要	× 【民】施設投資の資金調達及び回収が必要	× 一部土地代負担の回収が必要となる可能性 × 土地確保に多大な時間を要する可能性あり × 行政による公募手続きが必要	× 一部土地代負担の回収が必要となる可能性 × 土地確保に多大な時間を要する可能性あり × 【民】施設投資の資金調達及び回収が必要	× 行政の意思決定・事業化に高いハードルあり × 行政主導による自由度の制限 × 【公】一部土地代負担が発生する可能性	× 土地代を含めた多額の資金調達及び回収が必要 × 複合開発（住宅・ホテル等）による回収が必要 × デベロッパーの参画が不可欠
本計画における考察	行政のみによる事業化は見込めない	スムーズな事業化が期待できる一方で好立地な土地確保は期待できない	民設のハードルは高く、好立地な土地確保は期待できない	好立地な土地確保が期待でき、公設スキームによるメリットも享受できる	民設のハードルは高いが、好立地な土地確保が期待できる	行政のみによる土地確保を含めた事業化は見込めない	土地・建物一体的な民間単独の開発の期待度は低い

Ⅱ-３．事業スキームの方向性

- ✓ 先進事例を踏まえた本計画における３つの主体のあり方について以下に示します。
- ✓ この方向性をもとにして、本計画におけるゴール設定に示したとおり、**次年度以降、地元自治体及び投資や運営参画が期待される民間企業に対して関係づくり**を行います。
- ✓ ３つの主体の方向性を固めた上で、その形に沿った最適な事業手法を当てはめて事業化フェーズに進みます。

事業主体・事業手法	本計画における方向性について
土地	• 多くの事例が示すとおり、立地に関わらず、3ha程度の大きな土地を確保するには、行政との連携が欠かせない。 • 計画地の選定とともに、区画整理や土地造成費、借地料減免（民設の場合）等、官民連携による一体的な動きが求められる。
施設整備	• 民間による寄付や企業版ふるさと納税等の資金調達を最大限活かしつつ、広島市や太田市の事例のように、官民による費用分担のあり方を検討して、地元自治体との協議を行う。 • 公益性の高い機能を生み出すことで、行政からの支援を含め、官民連携によるリスク分担のあり方を探る。 • 民間の複合開発等の投資・参画のニーズを把握してコミュニケーションを図る。
運営（経営）	• クラブとの連携の他、施設計画や付帯すべき機能と連動し、多種多様な専門プレイヤーの参画を目指す。 • 単純なハコ運営ではなく、多様なマネタイズを実現する「営業集団」となる必要がある。
事業手法	• 事業手法を前提として捉えず、まずは民間で主体的に取り組める範囲を探りつつ、行政との関わり方を検討した上で、上記の３つの主体の方向性を明確化することが望ましい。

Ⅱ-４．官民連携の事業手法について

✓ 官民連携の事業手法のパターンについて、以下のとおり整理しました。

事業手法		指定管理	PFI（BTO）	PFI（BTコンセッション）	企業版ふるさと納税	公園施設の設置管理許可	普通財産の貸付	負担付き寄附	民設民営
該当	建設	－	○	○	○	○	－	○	○
	運営	○	○	○	－	○	○	○	○
主な関係法令		地方自治法	ＰＦＩ法	ＰＦＩ法	地方税法、所得税法	都市公園法	地方自治法、民法、借地借家法	地方自治法	－
概要		民間事業者等を指定管理者とし、公の施設の管理を行わせることができる制度	公共施設等の設計・建設・維持管理・運営を、一括して民間事業者に委託する制度	施設の所有権を公共主体が有したまま運営権を民間事業者に設定する制度 ※次ページ参照	公共施設の整備等において、企業版ふるさと納税を活用し、民間事業者等からの資金調達を行う手法	都市公園の施設について、公園管理者以外が公園管理者の許可を受けて設置・管理することができる制度	普通財産を民間事業者等に定期建物賃貸借等により貸し付けることができる制度	地方自治体が寄付を受ける際に、指定管理の指定などの法的な義務を負う寄附制度	民設民営を行う民間事業者等に対して、様々な官側の支援を行う
官側の支援		指定管理料の支払い（契約改定によるコントロール）	施設整備費及び運営費の一部支払い	施設整備費の一部支払い（混合型の場合は運営費の一部支払い）	税額控除	都市公園施設の設置・管理の許可	普通財産の貸付による運営	寄附により固定資産税負担が不要	市民利用枠の買取公有地の使用料免除
主な事例		・ｴﾃﾞｨｵﾝﾋﾟｰｽｳｨﾝｸﾞ広島 ・サンガスタジアムbyKYOCERA ・沖縄アリーナ	・ミクニワールドスタジアム北九州 ・横浜文化体育館	・IGアリーナ ・等々力緑地スタジアム ・富山市総合体育館（改修）	・OPEN HOUSE ARENA OTA ・駅前不動産スタジアム	・楽天生命パーク ・横浜スタジアム	・おおきにアリーナ舞洲	・パナソニックスタジアム吹田 ・ヨドコウ桜スタジアム	・FLAT八戸 ・エスコンフィールドHOKKAIDO ・アシックス里山スタジアム

出所：スポーツ庁資料より事務局作成

Ⅲ-0. 計画地の方向性

- ✓ まず、本計画の計画地の方向性として、後述の５つの計画候補地の中から８つの評価項目に基づき 、**「富山駅東エリア」を候補地**として**まちなかスタジアム**の検討を行います。
- ✓ 次ページ以降に、計画地の考え方や事例の整理について詳しく示します。



出所：Google Map

8つの評価項目

- 交通アクセス
- 周辺の都市機能
- まちづくりの発展性
- 周辺の環境への影響
- 建築条件の制約
- 事業化の難易度
- 富山のシンボル性
- 関係人口増加

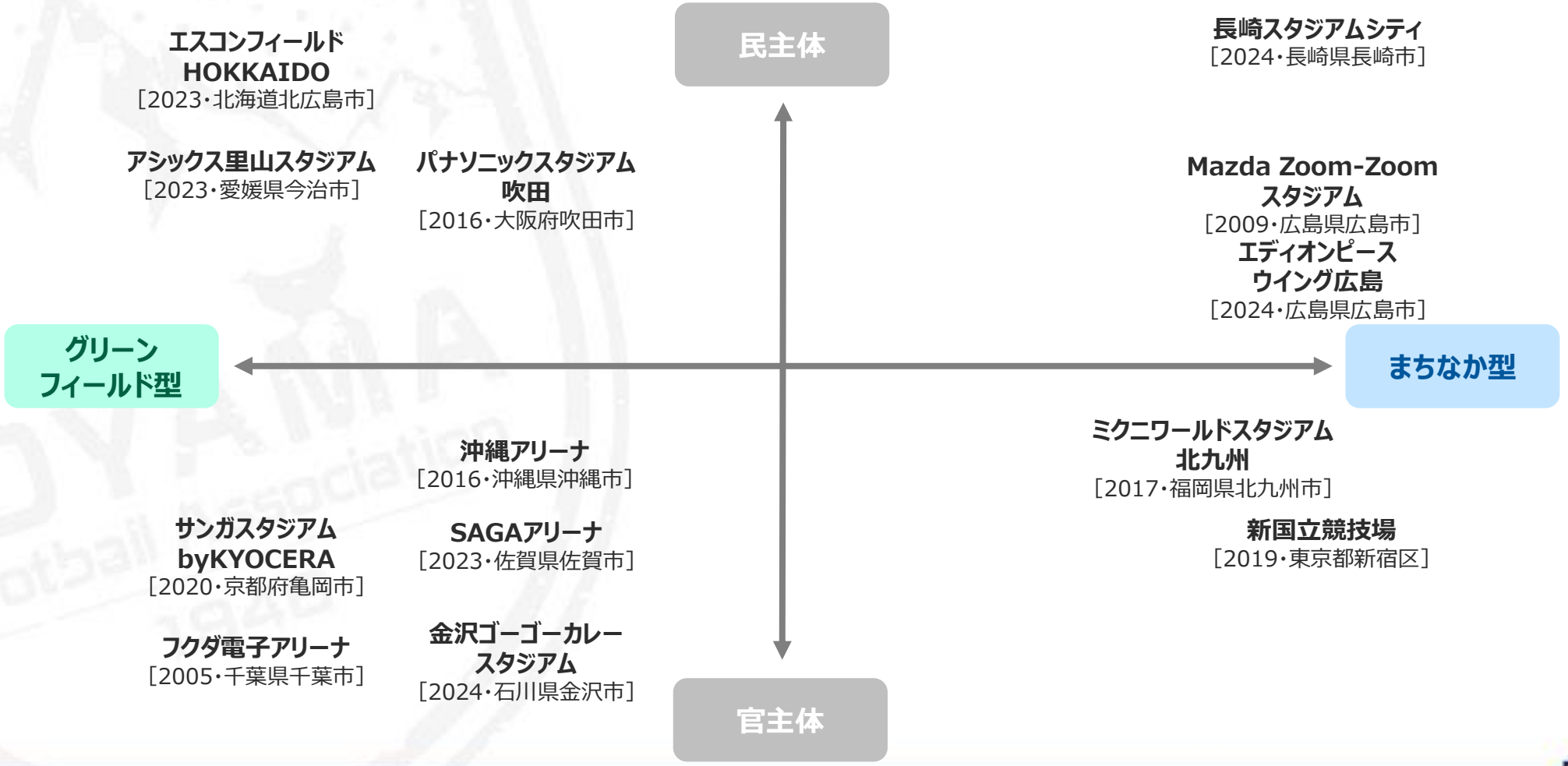
Ⅲ-1. 計画地の立地タイプについて

- ✓ 計画地の立地タイプとして、近年のトレンドを理解した上で、従来の郊外立地とは異なり新たなまちづくりの開発思想に基づく「グリーンフィールド型」、既存のまちの中心地に立地する「まちなか型」の２つに分類して検討を行いました。
- ✓ まず、２つの立地タイプの特性を比較しました。

立地タイプ	グリーンフィールド型	⟷	まちなか型
立地意向	ゼロからまちの拠点をつくる	⟷	既存のまちの中心地につくる
まちづくりの思想	まちづくりや地域課題解決の形を新たに体現する	⟷	既存のまちのポテンシャルを活かしつつ付加価値を与える
交通アクセス	自家用車を主体とする、駐車場が豊富	⟷	公共交通が充実、主要ターミナル駅が徒歩圏内
土地の価格	安価	⟷	高価
開発の難易度	行政との連携により土地を確保しやすい	⟷	土地の確保に時間及び資金を要する可能性あり

Ⅲ-2. 計画地の立地とトレンド

- ✓ 近年の国内におけるスタジアム（一部アリーナ含む）の先進事例を立地タイプ及び官民主体レベルに基づいて整理しました。
- ✓ 近年の先進事例では、2つの立地タイプのいずれかに焦点を当ててコンセプトを立てて、官民連携による整備が行われています。
- ✓ 本計画では、両方の立地タイプの可能性を見据えて、計画地の検証を行います。



Ⅲ-3. 計画候補地の選定について

✓ 私たちは、アンケートやワークショップにおける県民やサッカーファミリーの主な意見、3ha程度の広大な敷地を確保できる可能性があること、そしてプロジェクトコンセプトとの整合という点において、以下のとおり**計画候補地５箇所を抽出**しました。
✓ 次ページ以降に計画候補地５箇所の詳細な比較分析を示します。

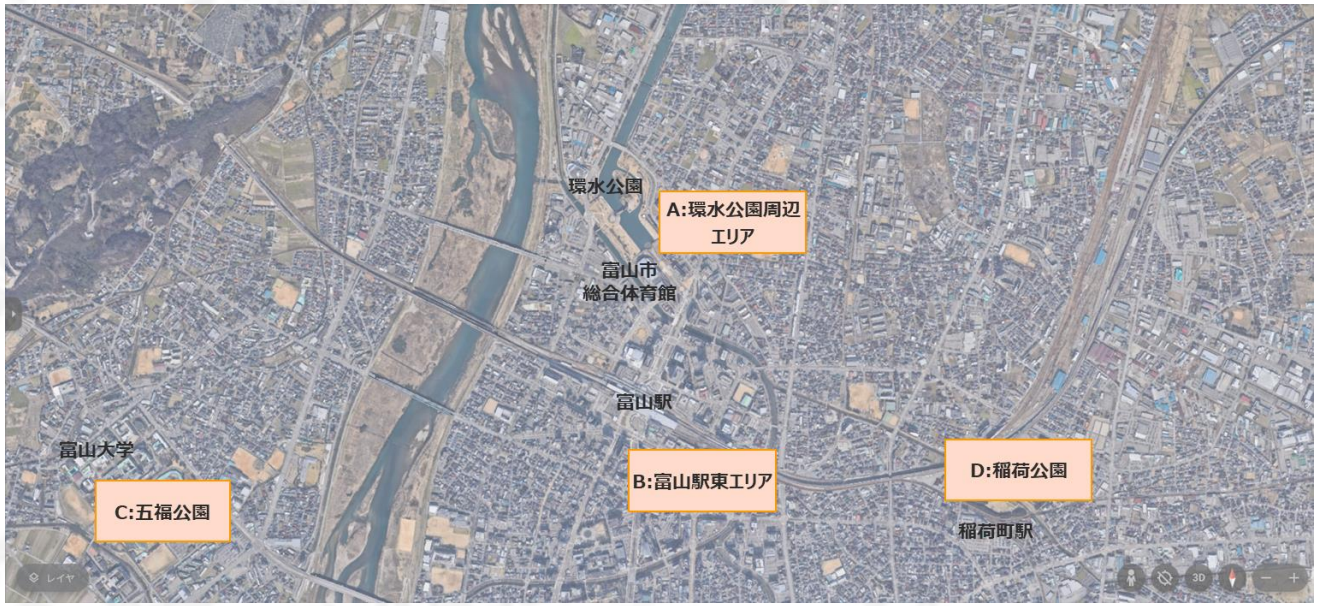
アンケート・ワークショップにおける立地に対する主な意見	• 公共交通アクセスが充実し、車を使わずに訪れることができる立地が望ましい。 • 公共交通アクセスが良ければ、お酒を飲みながら観戦を楽しむことができる。 • 新幹線駅からのアクセスが良ければ、県外のファンや観光客が来訪しやすい。 • 交通渋滞が起こらないようにしてほしい。
敷地確保の可能性について	• 現状の敷地利用や過去の富山県内の類似計画の検討状況を参考として、抽出を行う。 • 具体的な地権者との詳細の交渉については今後実施する前提とする。
プロジェクトコンセプトとの整合	• 公共交通アクセスに優れ、車に頼らない観戦が可能な立地。 • 既存のまちと機能連携し、スタジアムの賑わいを波及させて回遊性のあるまちづくりに寄与することができる立地。 • 県内外の企業が日常的に集い、県外の来街者や観光客が訪れやすいアクセスの良い立地。 • 富山県全体に付加価値を波及させて富山のシンボルとなる場所にふさわしい立地。

→上記の検討により、経済規模が大きく、新幹線駅を持つ富山エリアと高岡エリアにおける計画候補地として、以下の5箇所を抽出しました。

A：環水公園周辺エリア　**B：富山駅東エリア**　**C：稲荷公園**　**D：五福公園**　**E：新高岡駅周辺エリア**

Ⅲ-4. 計画候補地の選定について

✓ 前ページで示した計画候補地５箇所をマップ上で示します。





出所：Google Map

Ⅲ-5. 計画候補地の比較分析

- ✓ 計画候補地についての評価項目を設定して比較分析を行いました。
- ✓ 評価項目＝①交通アクセス、②周辺の都市機能、③まちづくりの発展性、④周辺の環境への影響、⑤建築条件の制約想定、⑥事業化の難易度。

評価項目	A:環水公園周辺エリア	B:富山駅東エリア	C:稲荷公園	D:五福公園	E:新高岡駅周辺エリア
①交通アクセス	• 富山駅（新幹線、あいの風、地鉄、市電）から徒歩5分程度 • （北方からのアクセスとして）ｵｰｸｽｶﾅﾙﾊﾟｰｸﾎﾃﾙ（市電）から徒歩2分程度 • 駐車場確保は厳しい	• 富山駅（新幹線、あいの風、地鉄、市電）から徒歩5分程度 • （南方からのアクセスとして）地鉄ビル前（市電）から徒歩1分程度 • 駐車場確保は厳しい	• （富山駅から3分の）地鉄稲荷町駅から徒歩3分程度 • 公園内における駐車場の配置は一部可能	• （富山駅～市電15分の）大学前駅から徒歩3分程度 • 公園内における駐車場の配置は一部可能	• 新高岡駅（新幹線、JR城端線）から徒歩5分程度 • 駐車場の新規確保や近隣の広大な既存駐車場との連携可能性あり
②周辺の都市機能	• 環水公園や富山市総合体育館に近接 • 駅北にホテル、オフィス、音楽ホールが立地	• 駅南の既存中心市街地の中に位置する	• 市立都市公園内	• 県立都市公園内 • 富山大学や県立高校、商業施設に近接	• 大規模商業施設（イオンモール）や高岡スポーツコア、高岡テクノドームに近接
③まちづくりの発展性	• 憩いの空間として名高い環水公園やBプレミアアリーナとなる富山市総合体育館、富山市ブールバール地区に接続し、まちづくりの発展性は高い	• 既存中心市街地における新たな賑わい拠点となり、まちなかの回遊性を高めることが大いに期待される • ビジネスコミュニティプレイスとしての活用が期待される	• 既存中心市街地に比較的近接する公園内における新たな賑わい拠点	• 既存中心市街地に比較的近接する公園内における新たな賑わい拠点	• 新幹線駅を中心として、既存機能と相乗効果のある新たなまちづくりの開発可能性あり
④周辺の環境への影響	• 閑静な公園、住宅街に近接し、騒音の問題が懸念される	• 駅南の既存中心市街地の中に位置する	• 住宅街に近接し、交通渋滞や混雑、騒音の問題が懸念される • 既存の公園環境が損なわれる	• 住宅街に近接し、交通渋滞や混雑、騒音の問題が懸念される • 既存の公園環境が損なわれる	• 田園が広がり住宅街は離れている

Ⅲ-5. 計画候補地の比較分析

✓ 計画候補地についての評価項目を設定して比較分析を行いました。
✓ 評価項目＝①交通アクセス、②周辺の都市機能、③まちづくりの発展性、④周辺の環境への影響、⑤建築条件の制約想定、⑥事業化の難易度。

評価項目	A:環水公園周辺エリア	B:富山駅東エリア	C:稲荷公園	D:五福公園	E:新高岡駅周辺エリア
⑤建築条件の制約想定	• 地区計画あり、高さ制限あり、用途地域の変更or許可が必要 • 道路計画の変更が必要 • メインスタンドへのアクセス動線の確保が厳しい • 敷地形状から南北軸での計画は厳しい	• 道路計画の変更が必要	• 都市公園法の制約あり • 既存水路との干渉がある • メインスタンドへのアクセス動線の確保が厳しい • 敷地形状から南北軸での計画は厳しい	• 都市公園法の制約あり • 高さ制限あり、用途地域の変更or許可が必要 • メインスタンドへのアクセス動線の確保が厳しい • 敷地形状から南北軸での計画は厳しい	• 市街化調整区域
⑥事業化の難易度	• 行政機能が立地し、方針決定に時間を要する懸念あり • 一部民有地の交渉に時間を要する恐れあり • 富山市のまちづくりとの方向性の共有が必要	• 行政機能が立地し、方針決定に時間を要する懸念あり • 一部民有地の交渉に時間を要する恐れあり • 富山市のまちづくりとの方向性の共有が必要	• 都市公園内であり、公園管理者（富山市）との連携により敷地が確保できれば円滑な事業化の可能性あり	• 都市公園内であり、公園管理者（富山県）との連携により敷地が確保できれば円滑な事業化の可能性あり	• 一部農地転用の手続きが想定されるが、行政との連携等により敷地が確保できれば円滑な事業化の可能性あり
【想定される事業スキーム】P9参照	❹や❺	❹や❺	❷や❸	❷や❸	❷や❸
【想定される立地タイプ】P9参照	まちなか型	まちなか型	グリーンフィールド型	グリーンフィールド型	グリーンフィールド型

Ⅲ-5. 計画候補地の比較分析

- ✓ プロジェクトコンセプト-1に資する⑦富山のシンボル性、プロジェクトコンセプト-2に資する⑧関係人口増加（県外の来街者・観光客・ビジネス客が訪れやすい立地環境）の評価項目を加えて、計画候補地の全体の比較分析の結果を以下に示します。
- ✓ 次年度に向けて、**B：富山駅東エリアを候補地**として**まちなかスタジアム**の検討を進めます。A,C,Eは条件次第で検討の余地があると考えます。

8つの評価項目	A:環水公園周辺エリア	B:富山駅東エリア	C:稲荷公園	D:五福公園	E:新高岡駅周辺エリア
①交通アクセス	◎	◎	○	△	△
②周辺の都市機能	◎	◎	○	△	○
③まちづくりの発展性	◎	◎	○	○	○
④周辺の環境への影響	△	○	△	△	◎
⑤建築条件の制約想定	△	◎	○	△	◎
⑥事業化の難易度	△	△	○	○	○
⑦富山のシンボル性	◎	◎	△	△	△
⑧関係人口増加	○	◎	△	△	△
評価の考え方	検討の余地あり	**検討が十分に期待できる**	検討の余地あり	検討は期待できない	検討の余地あり

Ⅳ-1. 目指すべきビジネスモデルの概論

- ✓ ビジネスモデルについて、スタジアムや興行のコンテンツ単体、付帯する施設・機能、周辺の複合開発に空間的に分類して整理を行います。
- ✓ 土地やスタジアム整備の投資回収を要する場合には、③複合開発の可能性を検証する必要があります。



①スタジアム

スタジアム・コンテンツ単体

②付帯施設・機能

スタジアムの内外に付帯する施設・機能

③複合開発

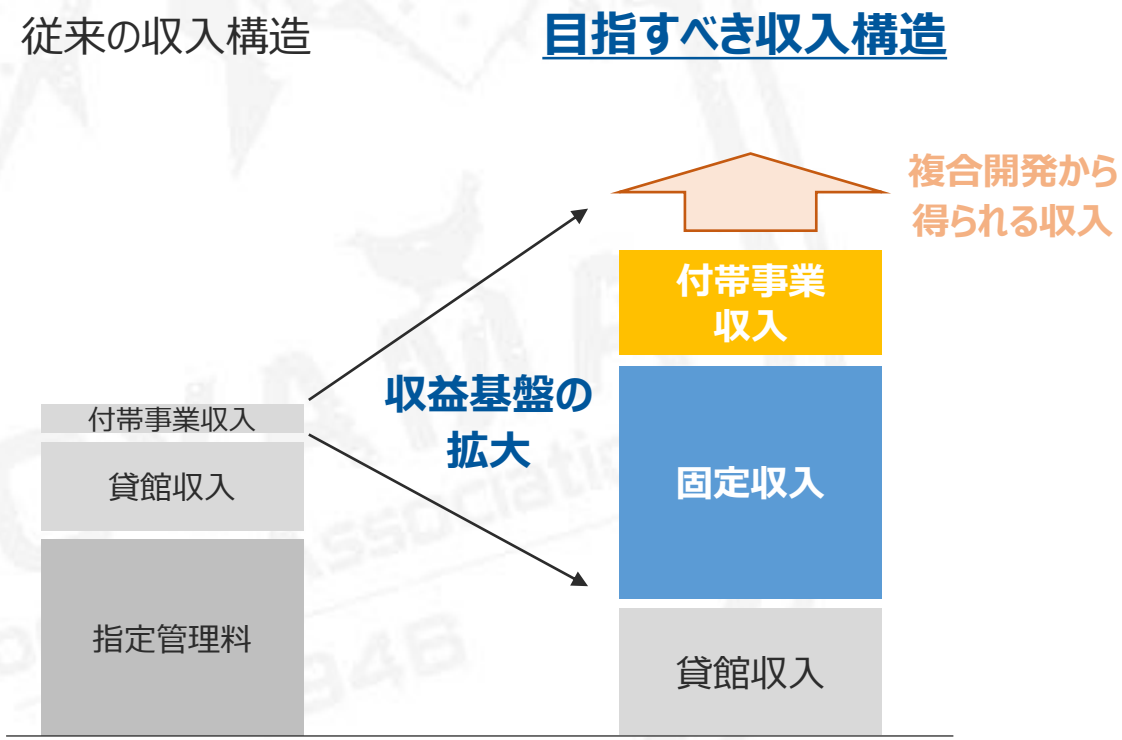
スタジアム周辺に隣接する敷地における開発

分類	重視すべき考え方	機能の例
①スタジアム	• コンテンツ自体の魅力を最大化するとともに、いかに固定収入（COI※）を確保するか	VIPホスピタリティ機能、会員サービス、ネーミングライツ、広告など
②付帯施設・機能	• 多様な機能を付帯することにより魅力向上を図り、ライト層の獲得につなげる • 行政との連携を図り地域課題解決に資する機能を誘致する	飲食、体験型施設、こどもの遊び場、教育施設、公共施設、IT/デジタル機能、自主興行企画など
③複合開発	• 土地やスタジアム整備の投資回収を要する場合、収益性のある不動産投資が求められる	住宅、オフィス、ホテル等

※ＣＯＩ：Contractual Obligated Income
契約上で金額・期間等が定められた固定収入

Ⅳ-2. 目指すべき収入構造

- ✓ 運営を自走させて自ら稼ぐスタジアムとなるためには、従来の公費を受けながら貸館を行うモデルから脱却し、**収入の間口を増やして収益基盤の拡大を図ることが不可欠**となります。
- ✓ また、魅力的で公益性の高い機能を揃えて多機能型とすることで、施設の付加価値を高めることができます。



図表 6. スタジアム・アリーナに関する主な収入機会

収入の種類	固定収入	変動収入
スポーツ関連収入	シーズンシート収入	前売券・当日券収入
	VIP席・ホスピタリティプログラム収入	
	プロチーム等公式戦使用料収入	プロチーム等ポストシーズン使用料収入
		地域スポーツ使用料収入
協賛収入等	スポンサー収入	
	命名権収入	
	放映権等収入	
イベント収入		前売券・当日券収入
		イベント興業主使用料収入
		法人イベント使用料収入
隣接施設収入	物販・飲食等テナント賃貸収入	物販・飲食等収入
	公共施設テナント収入	公共施設利用料金
	年間契約駐車場収入	駐車場収入
		会議室貸出収入

※ここに記載している収入は施設側の収入とチーム（興行側）の収入が含まれている。チームがどの程度、スタジアム・アリーナの運営に参画するかや、施設使用料の設定方法によって実際の収入は変動する。

出所：スポーツ庁「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」より抜粋

Ⅳ-3. COI収入の事例①

- ✓ 目指すべきCOI収入について、海外における事例を紹介します。
- ✓ スタジアムやコンテンツの価値を高めることで、会員サービスやスカイボックス年間契約、長期のネーミングライツといった固定収入を獲得しています。

ウェンブリースタジアム【英・ロンドン】



開業年	2007
収容人数	90,000人
所有運営	FAの子会社（ウェンブリー・ナショナル・スタジアム・リミテッド）

- ✓ 施設として**「クラブ・ウェンブリー」という会員組織**を設立、**収入の約7割**をクラブ・ウェンブリー会員費で占める
- ✓ ボックス席およびクラブ・ウェンブリー席は5つのカテゴリーあり
- ✓ クラブ・ウェンブリー共通のサービス：イングランド代表ホームゲーム全試合、FAカップ準決勝・決勝等の優先的なイベント観戦、鉄道サービス、専用コンコース、選手イベント、旅行代理サービスなど

出所：THE WEEK HP

アリアンツ・アレナ【独・ミュンヘン】



開業年	2005
収容人数	70,000人
所有運営	FCバイエルン・ミュンヘンの子会社（Allianz Arena München Stadion）

- ✓ **スカイボックス**：106室設置、**企業に5年間契約で販売**、年間€10万（約1,650万円）～€30万（約4,950万円）、365日24時間使用可能、FCバイエルン・ミュンヘンの全ての試合（リーグ戦・UEFA大会含む）が観戦可能
- ✓ **ネーミングライツ**：アリアンツ（保険会社）と2002年の着工から2041年までの長期契約、金額非公表
- ✓ レストラン：3カ所あり、施設内で調理し店舗にデリバリーするセントラルキッチン方式

出所：施設HP

Ⅳ-3. COI収入の事例②

- ✓ 目指すべきCOI収入について、ネーミングライツ獲得に向けた考え方を整理しました。
- ✓ 単なる広告価値を求める命名の権利付与だけではなく、幅広くパートナーの企業価値を向上させるための手段としてネーミングライツを有効活用してもらうことで、対価を増大させていくことが望まれます。

視点1. ビジネス市場の拡大

- ✓ スタジアムや興行コンテンツの関連ビジネスへの新規参画を目指す企業
- ✓ 既存ビジネスの新規顧客の獲得及び既存顧客への付加価値サービス提供
- ✓ 地理的な市場戦略、グローバルな需要の取り込み

視点2. ふるさとネットワーク

- ✓ 創業地、創業者のふるさとなど、スタジアムの地域との縁故がある企業
- ✓ 地方創生に寄与する企業スタンスを示す取り組みとしてネーミングライツを活用する

視点3. クラブ一体経営

- ✓ クラブがスタジアムを一体経営する場合において、クラブとしてのアイデンティティや一体的な価値を示すために、スポンサー等の関連会社が設定する
- ✓ VIPホスピタリティ等の多様なサービスとの連携

視点4. ビジョン共有

- ✓ SDGsなど社会課題解決を目指す取り組みの一環として、ビジョンを共有する形で設定する
- ✓ 計画段階から明確なビジョンを打ち出すことにより共感を引き出す



IGアリーナ
[愛知県名古屋市]
→オンライン金融サービスの外資のリーディングカンパニー、日本およびアジア地域における最大規模の契約と言われる



OPEN HOUSE ARENA OTA
[群馬県太田市]
→クラブ関連会社、ネーミングライツの他、アリーナ建設費のうち、企業版ふるさと納税として約40億円を拠出



Climate Pledge Arena
[米・シアトル]
→ゼロカーボン認証のアリーナ、Amazon社が企業名称ではなく「気候誓約」と命名

出所：各施設HP

Ⅳ-4．COI収入の目指すべき方向性

- ✓ COI収入の獲得に向けては、プロジェクトコンセプト-2に掲げたように、**toBのパートナーに対するVIP・ビジネスコミュニティ機能**の提供を大きな柱として設定します。
- ✓ コンテンツの魅力を高めた上で、パートナー各社の**企業価値向上**に繋がるようなサービス・空間を提供していくことが求められます。

検討事項	COI収入の獲得に向けた戦略
パートナーのターゲット	• 県内企業、県内経済団体 • 富山に縁や投資期待のある県外企業・グローバル企業
パートナーにとっての付加価値	• スタジアム空間を活用し、自社の企業価値向上に繋げる • 地域のシンボルとなるスタジアムにスポンサードすることによる地域におけるステータスの向上 • 経営層と若者・起業家とのマッチング、「あの人に出会える」スタジアム
提供すべきメニュー	• ビジネスコミュニティ機能、地元経済会合 • 自社の技術やサービスのプロモーションや実証実験の機会 • 人材獲得に繋げるリクルーティングのキッカケづくり
営業戦略	• クラブ（カターレ富山）と連携して営業基盤を活用 • Jリーグクラブとしての社会的価値をスタジアムというまちの拠点を受け皿としてさらに拡大させていく



出所：長崎スタジアムシティHP

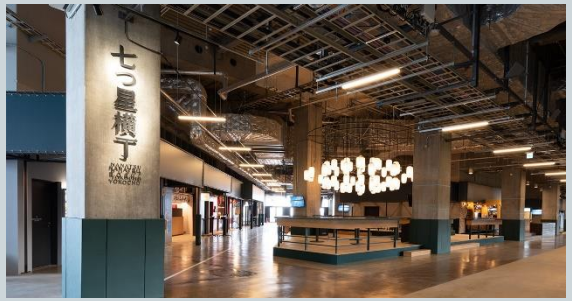


出所：広島スタジアムプロジェクトHP

Ⅳ-5. スタジアム×付帯機能のイメージ①

- ✓ 本計画における「スタジアム×付帯機能」の可能性について、事例とともに示します。
- ✓ Jリーグ試合日以外においても、日常的に人々が集まるワクワクドキドキするような仕掛けを検討します。

【事例】フードコート



エスコンフィールドHOKKAIDO
【北広島市】

- 球場イコール観戦だけではない自由な楽しみ方
- 試合日以外の休日も営業
- 昭和のレトロな雰囲気と現代デザインがマッチした空間

【事例】フィットネスジム



カシマサッカースタジアム
【鹿嶋市】

- スタジアムの指定管理者であるクラブが運営
- スポーツクラブのプログラムに加え、介護予防やダイエット、スキンケアなどの事業も展開

【事例】公園・広場



ひろしまスタジアムパーク
【広島市】

- スタジアムに隣接する公園において、自然の中で遊べるような大型遊具、商業施設や広場など、多様な活動と新たな交流を形成
- Park-PFIによる整備

【事例】地元ビール醸造所



トッテナム・ホットスパー・スタジアム【英・ロンドン】

- 地元ブルワリーとのコラボによりスタジアム内にビール醸造所を完備
- 巨大バーの設置
- 最高級のケータリングサービス

出所：各施設HP

Ⅳ-5. スタジアム×付帯機能のイメージ②

- ✓ 本計画における「スタジアム×付帯機能」の可能性について、事例とともに示します。
- ✓ Jリーグ試合日以外においても、日常的に人々が集まるワクワクドキドキするような仕掛けを検討します。

【事例】こどもの遊び場



サンガスタジアムbyKYOCERA
【京都市】

- こどもが思いっきり体を動かす楽しさを知ってもらう遊び場「KIRInoKO」
- 試合日に関わらず親子連れで賑わう
- 亀岡市による整備
- 保育園も隣接

【事例】企業発の研究・学習・交流施設



エスコンフィールドHOKKAIDO
【北広島市】

- 農業機械メーカーと大学による地元の基幹産業である農業に関する学習施設
- スマート農業技術の活用、農業体験、教育プログラム、人材交流

【事例】ミュージアム



東京ドーム
【東京都文京区】

- JFAが発信する新たなサッカー体験施設blue-ing!(ブルーイング)
- 次世代型の体験コンテンツ、最新のデジタル展示、イベントスペース、カフェ・ダイニング

【事例】モビリティサービス



TOYOTA ARENA TOKYO
【東京都港区】※計画中

- モビリティサービスにより、あらゆる人が気軽にアリーナを訪れ、自動運転により、移動中もエンターテインメント性のある時間と空間を生む
- 観戦シートとの連携

出所：各施設HP

Ⅳ-5. スタジアム×付帯機能のイメージ③

✓ 本計画における「スタジアム×付帯機能」の可能性について、アイデアの例を示します。
✓ 今後、多種多様なアイデアを集めながら、訪れたくなるような魅力的な多機能複合型のスタジアムを目指します。

【アイデア例】まちの映画館



例．山口情報芸術センター【山口市】

- 国内外の優れた映画作品を上映

→作品上映とVIP飲食機能のパッケージによる高付加価値化で平日昼間も稼働
→Jリーグアウェー戦のパブリックビューイング会場としても活用

【アイデア例】インキュベーションオフィス



例．SCOP TOYAMA【富山市】

- 旧県職員住宅をリノベーションし、創業支援センターと移住促進住宅が併設された複合施設

→起業を目指す若者や学習機会を求める学生が集う場づくり
→エンターテインメント性のあるスタジアムの中で新しい若者文化を創り出す

【アイデア例】新鮮な地元の食体験



例．近江町市場【金沢市】

- 金沢市民の台所、まちなかの魚市場

→日常的に新鮮な食材を購入し、生産者とのコミュニケーションを図る場
→富山県ブランディング「寿司といえば、富山」
→来場者に富山の食の魅力を体感してもらう

【アイデア例】デジタルアート体験



例．エプソンチームラボボーダレス【東京都港区】

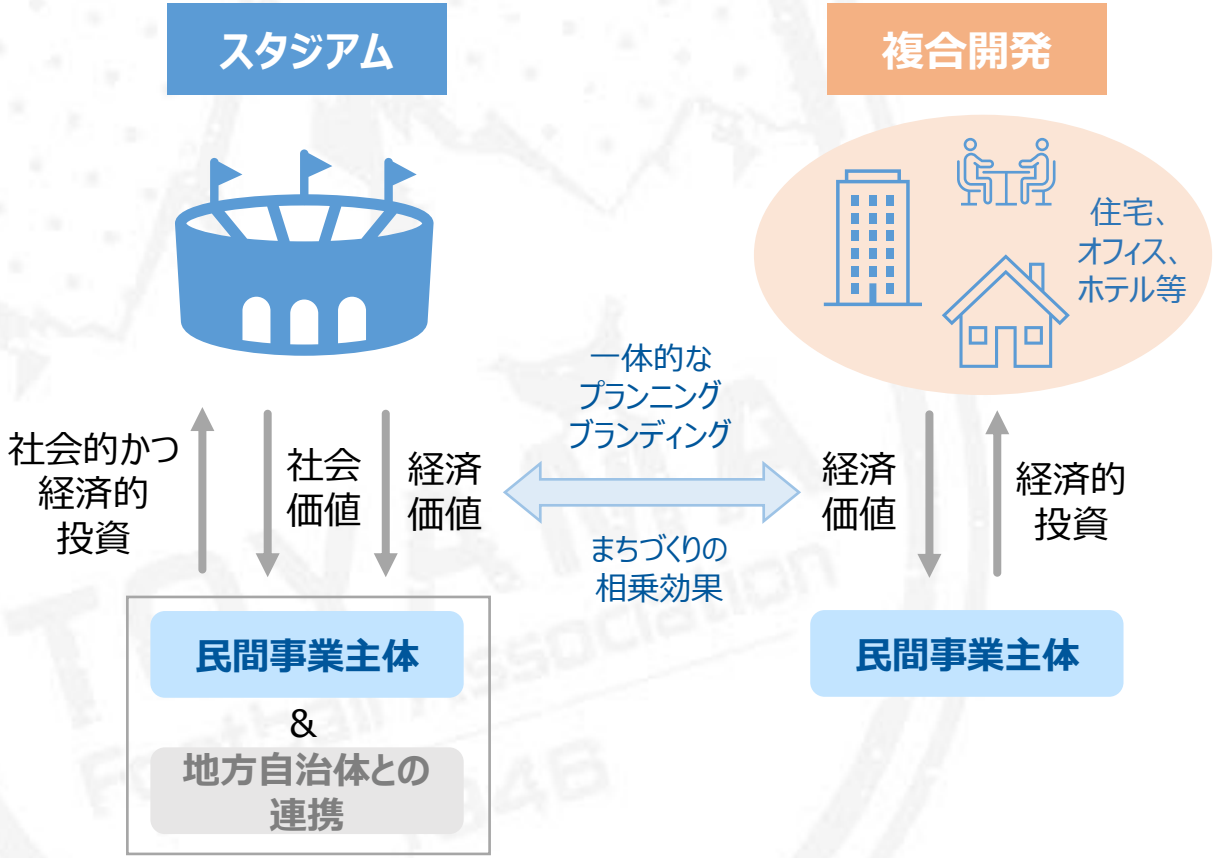
- アートコレクティブ・チームラボの境界のないアート群
- 麻布台ヒルズ内に開設

→開発施設・地区内の文化的な付加価値向上に寄与する未来体験型アート

出所：各施設HP

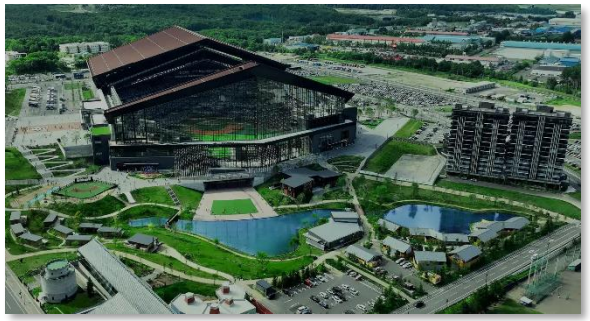
Ⅳ-6. スタジアム周辺の複合開発の可能性について

- ✓ スタジアム周辺における複合開発の概念図を以下に示します。
- ✓ 今後、民間企業等とのコミュニケーションにより複合開発の投資・参画ニーズを把握し、事業性の検証を行います。
- ✓ また、日本におけるスタジアム＋複合開発の事例としては、北海道ボールパーク、長崎スタジアムシティの事例が挙げられます。



➡ 複合開発による経済価値の後押しにより、**スタジアムによる社会価値及び経済価値**を最大限に高めることができる

北海道ボールパーク（2023開業）



出所：施設HP

- 約32haの広大な敷地に球場の他、緑、水辺、住宅、商業・宿泊・研究施設などを一体的に整備
- 試合がない日も一般開放される
- 最寄りとなる新駅が建設予定であり、さらに開発ニーズが高まる可能性あり

長崎スタジアムシティ（2024開業）



出所：施設HP

- 長崎駅から徒歩10分の好立地においてスタジアム、アリーナ、オフィス、ホテル、商業施設を整備
- 様々な体験型コンテンツを設け、ワクワクが溢れるエンターテインメント空間
- 総事業費は約1,000億円、年間利用者人数は850万人を見込む

Ⅴ-1. 施設規模・方針について①

✓ 施設の規模と方針を検討する上で、以下のとおり関連情報の整理を行いました。

（1）Jリーグスタジアム基準

Jリーグスタジアム基準[2024年度用]

Ⅰ．スタジアム規模等　2.入場可能数

- Ｊ１は15,000人以上、Ｊ２は10,000人以上(芝生席は観客席とはみなされない)
- ただし、Ｊリーグ規約第34条に定める「理想のスタジアム」の要件を満たし、ホームタウン人口等の状況、観客席の増設可能性（特に敷地条件）、入場料収入確保のための施策等を踏まえて理事会が総合的に判断した場合、5,000人以上（全席個席であること）で基準を満たすものとする。

「理想のスタジアム」の4つの要件

⚽ アクセスが優れている
⚽ すべての観客席が屋根で覆われている
⚽ 複数のビジネスラウンジやスカイボックス、大容量高速通信設備を備えている
⚽ フットボールスタジアムである

（2）近年のフットボールスタジアムの新設事例における収容人数

施設名称	所在地	開業年	収容人数	カテゴリー
プライフーズスタジアム	八戸市	2016	5,124人	J3
新スタジアム（モンテディオ山形）	天童市	2028予定	15,000人	J2
IWAKI GROWING UP PROJECT	いわき市	2031予定	8,000～10,000人予定	J2
長野Uスタジアム	長野市	2015	15,515人	J3
金沢ゴーゴーカレースタジアム	金沢市	2024	10,728人(拡張可)	J3
アシックス里山スタジアム	今治市	2023	5,030人(拡張可)	J3
長崎スタジアムシティ	長崎市	2024	20,000人	J2
いちご宮崎新富サッカー場	宮崎市	2021	5,375人(拡張可)	J3

- 2024年度より新設された緩和要件に従い、**「理想のスタジアム」の4つの要件を満たす**方針とする。
- また、必ずしも15,000人規模を目指す必要はないと想定される。

- J3クラスでは、**5,000人規模や10,000人規模の拡張型**のスタジアムとして整備するケースが見られる。
- 近隣の金沢市のスタジアムは、10,000人で整備されている。

Ⅴ-1. 施設規模・方針について②

✓ 施設の規模と方針を検討する上で、以下のとおり関連情報の整理を行いました。

（3）カターレ富山ホームゲーム平均入場者数の推移

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
JFL	J2	J2	J2	J2	J2	J2	J3
4,306人	3,740人	4,463人	3,275人	3,324人	4,474人	4,266人	2,820人

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
J3	J3	J3	J3	J3	J3	J3	J3
3,608人	3,159人	2,670人	2,737人	1,217人	2,780人	2,872人	3,444人

- 概ね、平均3,000人台程度の入場者数となっている。

（4）カターレ富山ホームゲーム入場者数の歴代上位実績

順位	年月日	大会	対戦相手	入場者数	備考
1	2013年 4月 21日	J2	vs ガンバ大阪	13,639人	上位有名クラブとの対戦
2	2024年12月 7日	J3PO	vs 松本山雅FC	11,847人	昇格プレーオフ
3	2010年 3月 20日	J2	vs 大分トリニータ	10,726人	上位有名クラブとの対戦
4	2008年 3月 16日	JFL	vs ギラヴァンツ北九州	10,704人	チーム結成の初戦
5	2024年 10月 6日	J3	vs FC今治	9,700人	昇格争い
6	2011年 8月 28日	J2	vs FC東京	8,663人	上位有名クラブとの対戦
7	2024年 5月 22日	J杯	vs ヴィッセル神戸	8,223人	上位有名クラブとの対戦
8	2014年 5月 18日	J2	vs ジュビロ磐田	8,018人	上位有名クラブとの対戦

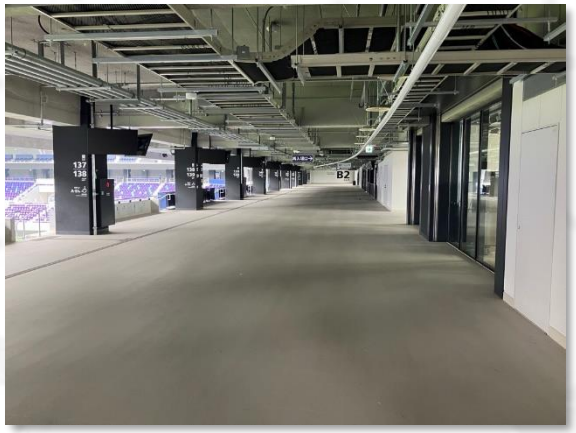
- 上位有名クラブや昇格争いなど注目度の高い試合では、10,000人前後の入場者数を記録している。

施設規模・方針について

- **収容人数10,000～15,000人を前提**として施設計画の詳細検討を行う。
- 今後、計画地における建築条件や設計詳細検討、整備費の算出を行う他、初期投資を抑えるための拡張型の検討や秋春制へのシーズン移行に向けた仕様の対応等の検討を行うものとする。
- アクセスに優れ、観戦環境の充実した**新スタジアム整備の効果**を創出したい。

Ⅴ-2. 施設計画のポイント①

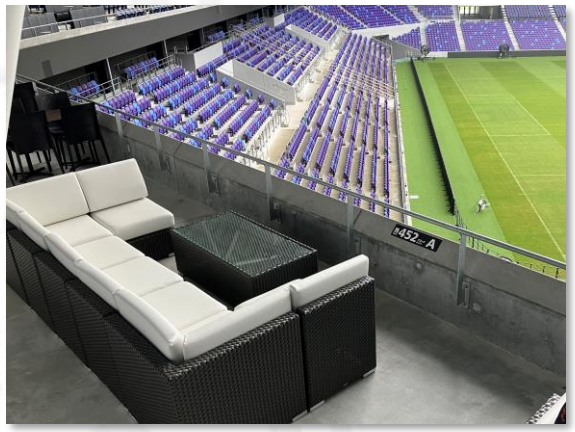
- ✓ 先進事例の事業会社や施設管理者へのヒアリング、現地視察を通して、私たちが望ましいと考える施設計画のポイントについて整理しました。
- ✓ 次年度以降、より詳細の検討を進めて、富山のシンボルとなるワクワク・ドキドキが集まった施設のあり方を追求します。



出所：事務局撮影（エディオンピースウイング広島）

広々としたコンコース

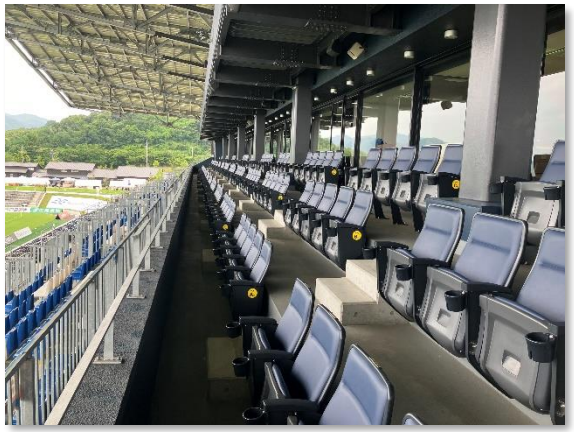
- 試合観戦以外の飲食や憩いの空間としての居心地の良さ。
- 幅の広さ（広島事例:10m）、360度周回できて円滑な移動が可能。
- どこからでもピッチを見渡せる視認性。豊富なディスプレイ設置。
- 混雑を和らげるトイレ空間の設計。



出所：事務局撮影（エディオンピースウイング広島）

バラエティに富んだ席種

- ライトなファン層が楽しめる多種多様な席種。
- ソファ席、立食カウンター席、BBQ席、パーティー席、カップル席など。
- 設計上の工夫によりメリハリのある座席配置を行う。



出所：事務局撮影（アシックス里山スタジアム）

ホスピタリティのある観戦空間

- ラグジュアリーな観戦を楽しめるスイートルーム・座席・ラウンジ。
- 主にtoB向けの年間販売により大きな収益源とする。
- 良質な個室空間における飲食等のホスピタリティサービス。VIP顧客を想定した独立した動線。
- 高付加価値な観光サービスとの連携。



出所：事務局撮影（エディオンピースウイング広島）

ビジネスコミュニティプレイス

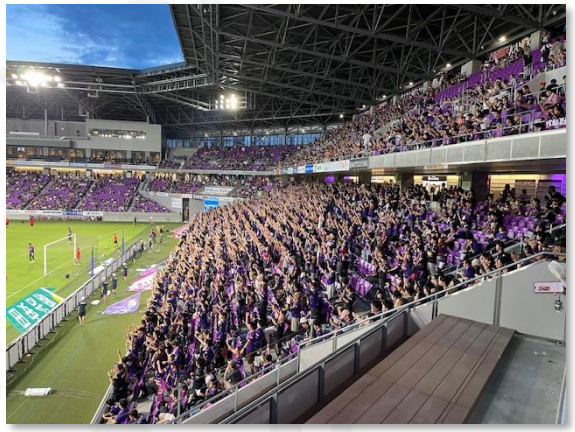
- プロジェクトコンセプト-2に資する県内外の企業が日常的に集う洗練されたコミュニティ空間。
- 県内企業の経営層と地元の若者が触れ合い、多様な接点とビジネスチャンスを生む場所。
- 平日は貸室として開放し、商談や会合、コワーキングスペースとしてのニーズに対応。

Ⅴ-2. 施設計画のポイント②

- ✓ 先進事例の事業会社や施設管理者へのヒアリング、現地視察を通して、私たちが望ましいと考える施設計画のポイントについて整理しました。
- ✓ 次年度以降、より詳細の検討を進めて、富山のシンボルとなるワクワク・ドキドキが集まった施設のあり方を追求します。



出所：事務局撮影（エディオンピースウイング広島）



出所：事務局撮影（サンガスタジアムbyKYOCERA）



出所：事務局撮影（エディオンピースウイング広島）



出所：エディオンピースウイング広島HP

ピッチとの近接性

- スタンド最前列とピッチとの距離を最大限に近付けて躍動感のある観戦が楽しめる。
- 憧れの選手のプレーを間近で見たり触れ合うことで、ファンとの距離を縮め、子どもたちに夢と希望を与える。

すべての席を覆う屋根

- 老若男女の来訪者が雨に濡れず寒さを和らげて快適な観戦を楽しむためにすべての席を覆う屋根を整備。
- 歓声や音楽が反響することで臨場感が高まり非日常の熱量を生み、選手のプレーを後押し。
- 一方で、風通しや日照など、芝生管理との最適な調整を図る。

エンタメ性のあるICT設備

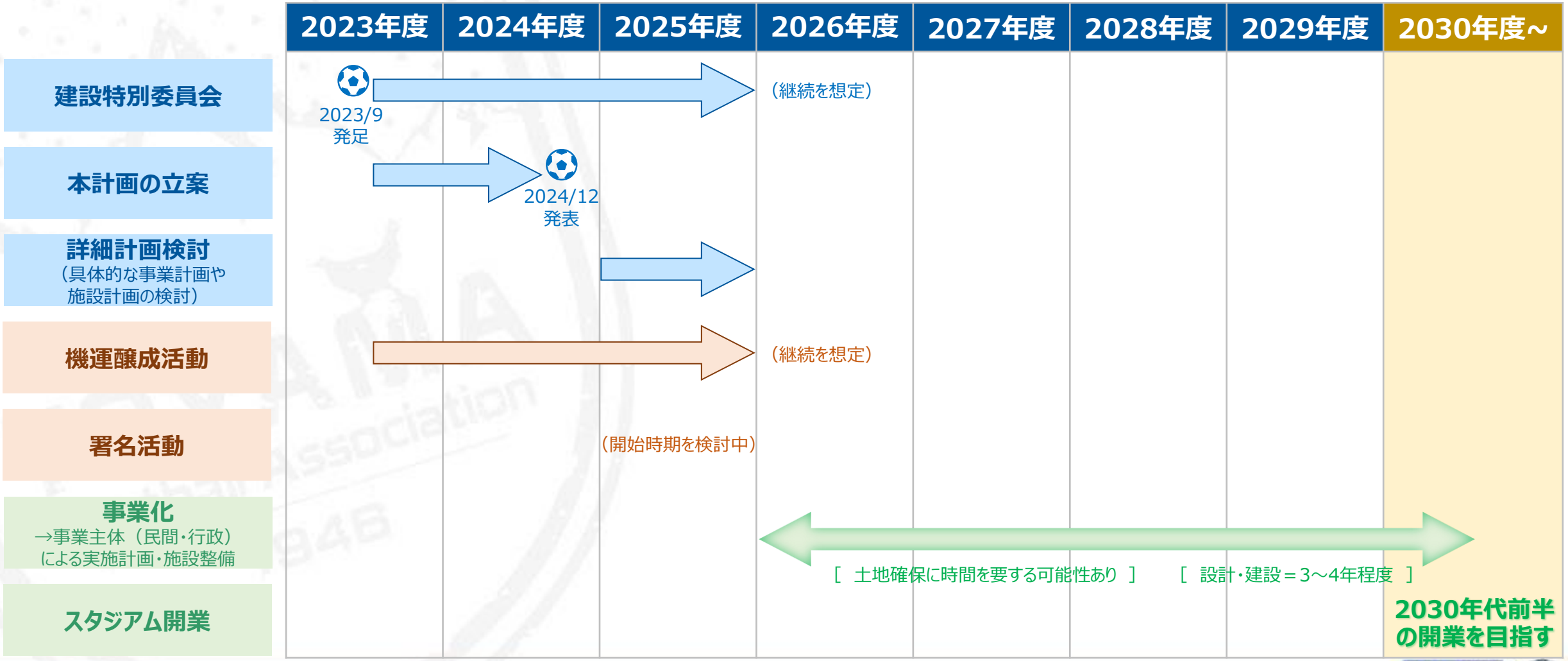
- 巨大な大型ビジョンやリボンビジョンの設置によるエンタメ性の高い演出、広告機会の創出。
- 照明や音響の設備・オペレーションを充実させて、ライトなファン層も楽しめる空間とする。
- 快適な通信環境の実現。

付帯施設や付帯広場との連携

- スタジアム施設内または隣接地における多機能な店舗、サービス、公園、広場。
- 多機能複合型として試合のない日も賑わい、まちに回遊性を生む。地域課題解決に資する公益的なサービス機能。
- 「富山ならでは」が満載で新たな富山ファンを増やす。

Ⅵ-1. ロードマップについて

- ✓ 今後の計画スケジュールと開業に向けたロードマップの想定を以下に示します。
- ✓ 次年度（2025年度）の進め方や想定されるプロジェクト体制を次ページに示します。



Ⅵ-2. 次年度のプロジェクト体制について

- ✓ 次年度（2025年度）に目指すプロジェクト体制を以下に示します。
- ✓ 2024年度の体制に加えて、計画地における地元自治体とともに計画を推進し、投資や運営参画の意思を持つ民間企業や計画地における地権者との協議を行うことを目指します。
- ✓ スタジアムの整備～運営段階における事業分野は多岐にわたるため、地元を中心とした多様な専門プレイヤーと計画段階からコミュニケーションを図り、計画をブラッシュアップさせていきます。

とやまスタジアムランド プロジェクト ＋ 地元自治体

↕ コミュニケーション

地元を中心とした 多様な 専門プレイヤー

とやま スタジアムランドプロジェクト みんなでワクドキまちづくり

- 地元経済界
- 大学・研究機関
- 日本サッカー協会
- カターレ富山
- 専門人材
- 地元自治体

TOYAMA Football Association 1949 公益社団法人 富山県サッカー協会

↔ 地権者

↔ 民間企業

- ホスピタリティサービス
- 飲食
- コンベンション
- 観光
- デベロッパー
- ファン・サポーター
- ライブエンタメ
- プロモーター
- メディア
- モビリティ
- IT・通信
- ブランディング
- 設計建設
- 芝生
- ビルメンテナンス

Ⅶ-1. アンケートの実施

（1）アンケートの実施概要　（詳細は別添資料参照）

①県民の意識調査

- 調査対象
令和6年（2024年）4月時点で富山県に在住する成人（18歳以上、全15市町村）

- 標本数
14,439人（想定母集団：成人85万人）

- 抽出方法
株式会社サーベイリサーチセンター（東京都文京区後楽1-1-3）保有のモニター

- 調査方法
アンケートシステムによるモニターへの告知

- 調査期間
令和6年（2024年）4月26日（金）から5月9日（木）までの回答分

【実施主体】
富山大学学術研究部教育学系

②カターレ富山観戦者の意識調査

- 調査日
2023年11月12日（日）11:30～試合終了時@富山県総合運動公園陸上競技場

- 調査対象
中学生以上の来場者

- 調査方法
Webによる自記式調査（Google Formへの入力）、入場ゲートにおいて二次元バーコードが記載された用紙を配布

- 配布数
1,000部

- 回収数
513部

【実施主体】
公益社団法人富山県サッカー協会「サッカースタジアム建設特別委員会」

③富山県サッカー協会関係者の意識調査

- 調査対象
富山県サッカー協会に所属する者

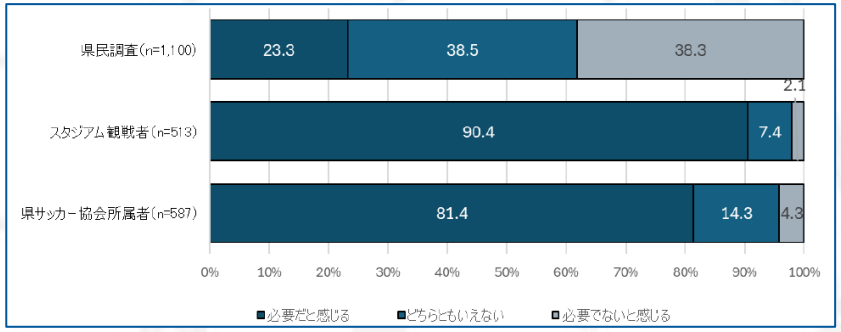
- 調査期間
2024年1月26日（金）～2月5日（月）

- 有効回答数
587部

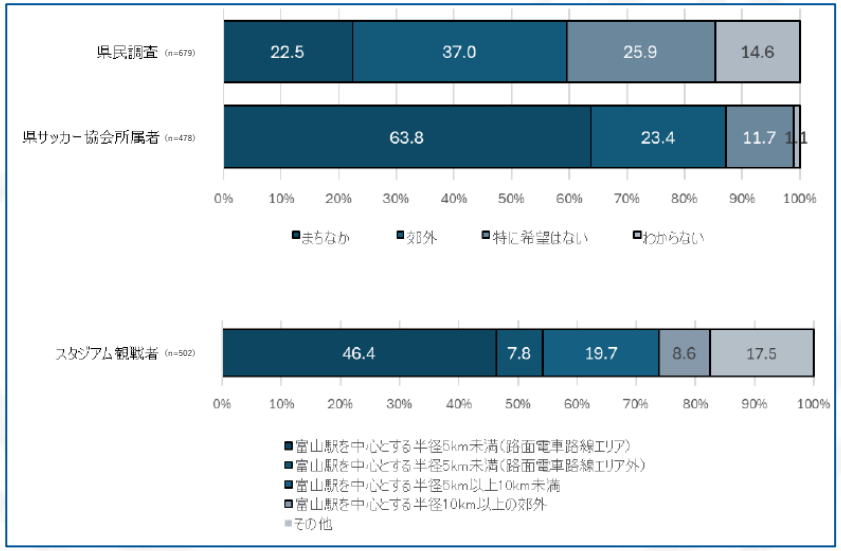
【実施主体】
公益社団法人富山県サッカー協会「サッカースタジアム建設特別委員会」

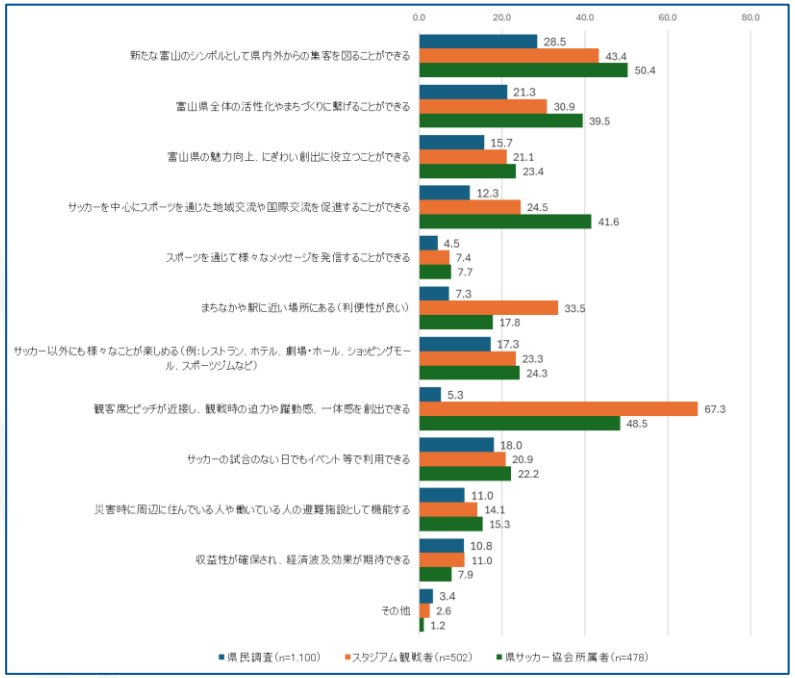
Ⅶ-1. アンケートの実施

（2）アンケート結果の要旨　（詳細は別添資料参照）



問．サッカー専用スタジアムの建設の必要性
→スタジアム観戦者や協会所属者は必要と感じる割合が、それぞれ9割以上、8割以上と高く、県民全体に比べて必要性を強く感じていることが分かる。

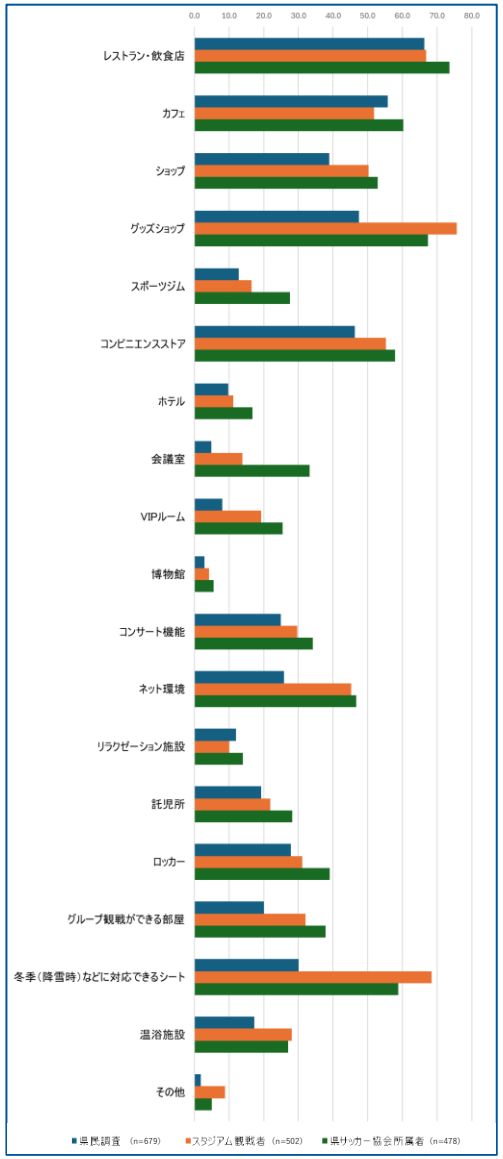




問．新しいスタジアムに求めること
→スタジアム観戦者、県サッカー協会所属者も「新たな富山のシンボルによる誘客」「富山県全体の活性化」など、交流・関係人口の増加やまちづくりを視野に入れた地域活性化を注視している。

問．スタジアムの建設場所について望む立地
→スタジアム観戦者は「富山駅を中心とする半径5km未満」の割合が半数以上、協会所属者は「まちなか（主要駅から徒歩で向かうことができる立地）」が6割以上であり、県民全体に比べて「まちなか」「富山駅周辺」エリアを望む声が多い。

問．スタジアムに欲しい機能
→県民全体と同様に、スタジアム観戦者も県サッカー協会所属者も「レストラン・飲食店」「カフェ」「コンビニエンスストア」「グッズショップ」など、飲食・販売系に高いニーズがある。スタジアム観戦者、県サッカー協会所属者は県民全体に比べて、「VIPルーム」「会議室」「ネット環境」「グループ観戦ができる部屋」「冬季（降雪時）などに対応できるシート」など、試合や興行等に関連するスタジアム機能の強化を望んでいる。



Ⅶ-2. ワークショップの実施

（1）ワークショップ（WS）開催実績

No.	年月日	名称	会場	対象
#1	2024年 5月26日	WS高岡	高岡市ウイングウイング高岡	一般市民
#2	2024年 6月29日	WS魚津	魚津市ありそドーム	一般市民
#3	2024年 7月 9日	WS富山・北部地区	富山市岩瀬カナル会館	一般市民
#4	2024年 7月10日	WS富山大学	富山大学	大学生
#5	2024年 7月20日	WS砺波	砺波市県西部体育センター	一般市民
#6	2024年 8月 2日	WS富山	富山県総合運動公園陸上競技場	カターレ富山サポーター
#7	2024年 8月 6日	WS富山・TSC	富山県民会館	富山スポーツコミュニケーションズ
#8	2024年 8月23日	WS富山・呉羽地区	富山市老田地区センター	一般市民
#9	2024年 9月18日	WS富山商業高校	富山商業高校	高校生
#10	2024年10月31日	WS高岡高校	高岡高校	高校生







（2）主な意見の抽出

立地	• 公共交通アクセスが充実し、車を使わずに訪れることができる立地 • お酒を飲みながら観戦を楽しめるように公共交通アクセスがよい立地 • 新幹線駅からのアクセスが良ければ、県外のファンや観光客が来訪しやすい • 交通渋滞が起こらないようにしてほしい
機能	• 寿司屋、スイーツバイキング、カフェ • ホテル、温泉、グランピング • 映画館、プラネタリウム • 遊園地、釣り堀 • 富山縁のドラえもんミュージアム • フェスやライブの開催、併設アリーナ • eスポーツ • イベント開催できるオープンスペース • 観光振興機能 • 防災拠点
観戦環境	• サッカー専用スタジアム（陸上トラックがない）が望ましい • 雨に当たらず歓声の反響がある屋根で囲まれた空間 • 家族で観戦が楽しめるファミリールーム • VIPルーム • コンコースは広い方がよい
まちの課題	• 若者が体験して楽しめるような場所が乏しい • 遊びに行ける場所がない • 雨の日のレジャー施設が少ない • 公共交通を利用してお酒を飲んで帰るような文化が少ない

Ⅷ-1. サッカースタジアム建設特別委員会の活動

（1）特別委員会の活動実績

年月日	活動	主な内容
2023年 9月29日	**委員会発足**	記者会見による発表
2023年10月 9日	**第１回特別委員会**	委員の紹介、委員会の目的、今後の進め方
2023年12月11日	**第２回特別委員会**	カターレ富山会場アンケート、県民の意見集約策
2024年 2月12日	**第３回特別委員会**	協会登録者アンケート、計画立案について
2024年 3月16日	**タウンミーティング**	パネルディスカッション、JFA専務理事参加
2024年 4月 8日	**第４回特別委員会**	プロジェクト名称、協議＝計画立案の骨子
2024年 5月13日	**第５回特別委員会**	アンケート結果、協議＝コンセプト・ビジネスモデル
2024年 6月10日	**第６回特別委員会**	視察予定確認、協議＝事業スキーム
2024年 6月11日	**先進事例視察①**	金沢ゴーゴーカレースタジアムの視察・ヒアリング
2024年 6月30日	**先進事例視察②**	アシックス里山スタジアムの視察・ヒアリング
2024年 7月 1日	**先進事例視察③**	エディオンピースウイング広島の視察・ヒアリング
2024年 7月 8日	**第７回特別委員会**	コンセプト決定、協議＝計画候補地
2024年 8月25日	**先進事例視察④**	サンガスタジアムbyKYOCERAの視察・ヒアリング
2024年 9月 9日	**第８回特別委員会**	協議＝施設計画・計画候補地・検討体制
2024年10月15日	**第９回特別委員会**	協議＝計画書構成
2024年11月11日	**第10回特別委員会**	署名活動について、協議＝計画書構成
2024年12月 9日	**第11回特別委員会**	今後のスケジュール、協議＝計画書の最終確認
2024年12月16日	**本計画書の報告**	記者会見による発表

（2）委員名簿

委員種別	氏　名	所属・役職
委員長	豊岡　達郎	富山県サッカー協会 担当理事
副委員長	遠藤　忠洋	富山県サッカー協会 担当副会長
委員	品川　祐一郎	トヨタモビリティ富山㈱ 代表取締役社長
委員	酒井　洋	㈱建工ホールディングス 代表取締役社長
委員	宮下　毅	㈱インテック 専務執行役員
委員	田中　悟史	㈱日本政策投資銀行 富山事務所長
委員補佐	早川　琢雄	㈱日本政策投資銀行 産業調査部兼地域調査部
委員	神野　賢治	富山大学 教育学部准教授
委員	齋藤　徳宏	㈱カターレ富山 大営業本部本部長兼経営企画部長
委員	横井　憲治	富山県サッカー協会 専務理事
委員	山本　和成	富山県サッカー協会 常務理事
事務局支援	東　一洋	㈱日本総合研究所 シニアマネージャー
事務局支援	並川　健	㈱日本総合研究所 シニアコンサルタント



アシックス里山スタジアム視察の様子
（2024/6/30事務局撮影）



エディオンピースウイング広島視察の様子
（2024/7/1事務局撮影）



サンガスタジアムbyKYOCERA視察の様子
（2024/8/25事務局撮影）